

俗耳談

市川寬齋口話  
加藤九敏筆

四篇 卷二

特別  
15  
1420  
12









いふるいふる

一 羅山詩集云東照鳳皇外有二藥曰日光明神曰  
摩多羅神○元寬日記云摩多羅神俗云賴朝卿  
有非也是素盞鳥尊也賴朝卿請此神被建一  
社故時以号賴朝堂

一 俗云... 又いひり... 亦一...  
又不得あり  
一 中... 六書正誤... 搜神記...  
遺文 匡方考 繩... 標...

一 吾邦の古怪談と云ふもの... 新御加... 大抵...  
大抵... 怪談... 柳...  
い... 假... 正... 匡... 標...  
... 因... 新... 全... 凡...  
... 字...  
... 又... 中... 怪...  
... 又... 又...  
... 奇... 神... 怪...  
... 實... 集... 未... 記...



一向りの字借借多れも... 又曰其亦未だ其の  
字書に假しとほすもよりのこと也 又如く借書一借備  
鶴穂枝棲並かきり 莊子の貸粟於監河侯と  
多將貸子三百金とあり かつらうにありていふに  
かきりていふことあり 又古字論語に沽酒市  
脯これかきり 又沽哉沽哉とあり 字彙の注に  
買也賣也とあり かつらうにありていふに  
あまのあまといふことあり かつらうにありていふに  
語に就ていふれどもいふに かつらうにありていふに

一 煨草个世ををいふ 州に 借借ををいふ かつらうに  
いふに 他にありていふに かつらうにありていふに  
のいふにありていふに かつらうにありていふに  
後中ありていふに かつらうにありていふに  
かつらうにありていふに かつらうにありていふに  
一 昔々のめりていふに かつらうにありていふに  
ヤ 曰他にありていふに かつらうにありていふに  
倉新とありていふに かつらうにありていふに  
拘と相撰とありていふに かつらうにありていふに







蜜も岩なるまじりしもの石蜜のなつく個目粉のふ  
蜜と名つくるとも類しく同なるものなる  
しもらるる

一 近倍割るるを飾ふすし中執とくえんより金の糸  
うらむ村々もどし金の丸なる階地のふもくおのふよ  
りしと判りしと又いふよとけりくかまきり口入  
しものきりまておろしんべし類れぬ  
一 かわらぬとくもの倍合をよりあり可下可下これ  
るしあつししとくさすとうけしあけしとくさる

是より人かぐせしし揚ちる類しとくねせけきすお  
まけよあけよとあるまねしをしとましとけ  
あけしとくさる

一字もかみけ交うかきしし倍は器しとく自知らる  
假如の同一き空しとくわけしし一類しとけりし  
研り又古へ昔しとくおしとくしとく多しとく  
皆一字もかみけ交うかきしし倍は器しとく自知らる  
中よりとくしとくしとく又おの出入り始りし  
おとくしとくしとくしとくおの始りしとくしとく

七...の...  
月...  
...  
...

一回今...  
...  
...

一...  
...  
...

一 兜羅綿の華名...  
...  
...

一 神...  
...  
...

一人の死...  
...





